

ここまで分かった！ 特定外来生物オオキンケイギクの侵入状況

5 月になると、道端等の身近な環境で鮮やかな黄色い花が咲き始めます。実はこの植物、特定外来生物に指定されているオオキンケイギクです。生命のにぎわい調査団では、調査対象種の 1 つとしてオオキンケイギクの生育に關する情報を収集してきました。今号では、これまでに得られた分布情報を地図としてまとめることで、オオキンケイギクの生育状況を把握し、生態の解明に迫っていきます。写真左上は撮影者の団員番号です。

オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata*



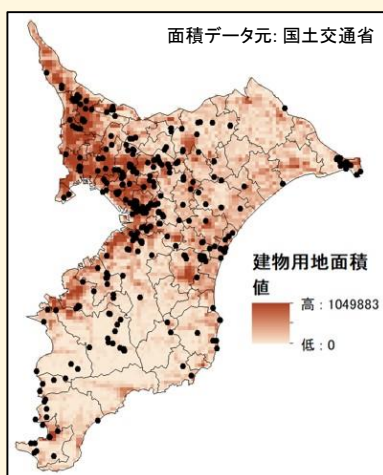
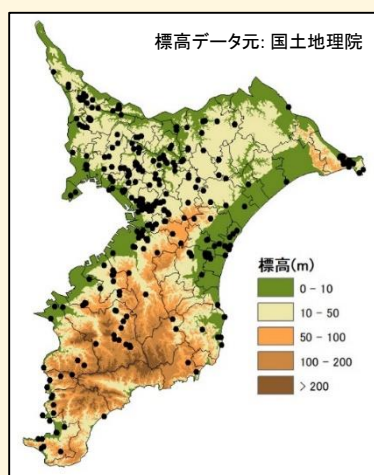
北アメリカ原産の多年草で、30－70cm ほどの高さに、直径 5－7cm ほどの花を咲かせます。とても鮮やかな橙黄色をしています。特定外来生物に指定されているため、自宅の庭や花壇等に植えてはいけません。



5 月から 7 月にかけて、道端、河川敷、線路沿いや海岸などの様々な環境で多くの花が咲いている姿が見られます。日当たりの良い環境に大群落を形成し、光を遮ることによって在来植物を駆逐してしまうおそれがあることから、駆除の対象となっています。



根元の葉は細長く扁平で、へら状になっており、一番幅のある部分でも 1cm 程度しかありません。葉の両面には粗い毛が生え、葉の周囲はなめらかです。種小名「lanceolata」は「槍のような」という意味があり、尖った葉の形状に由来します。



2008 年から 2021 年までに報告されたデータを整理して地図化してみたところ、オオキンケイギクは県内全域へとまんべんなく分布を拡大させているのではなく、ある程度まとまりを持って分布していることが分かりました。特に、県中部から北西部に分布が集中しています。そこで、分布に影響すると思われる標高や建物用地面積等の地図に分布地点を重ねてみたところ、オオキンケイギクは標高の低い地域や市街地を中心に分布を拡大させていることが分かってきました。

では、報告がほとんどない県北東部や標高の高い県南部は生育に不適な環境なのでしょうか。それとも、実際には生育しているけれども、分布データがないだけなのでしょうか。

この疑問に答えるためには、上記分布図の空白地帯でも調査を行う必要があります。幸いなことに、生命のにぎわい調査団には、県内全域に団員がいますので、今後、より詳細にオオキンケイギクの生育状況が見えてくることでしょう。皆様の発見報告をお待ちしています。

もし、上記の分布図にない地域でオオキンケイギクを見かけた際は、是非とも生き物報告までご投稿ください。団員のみなさんで丸となって、千葉県内に定着したオオキンケイギクの生息状況を明らかにしていきましょう！

古典文学と里山の生き物たちの世界

第十六回 ドジョウ

Misgurnus anguillicaudatus コイ目ドジョウ科

詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何を見ていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、^{いのち}生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

剣聖・宮本武蔵が諸国を遍歴して武者修行していた頃。ある日、^{でわのくに}出羽国の正法寺原というところを通りかかると、道端でドジョウを獲っている少年がいます。空腹の武蔵が少し分けてくれと頼むと、少年は気前よく桶ごと全てのドジョウを武蔵にくれてしまいます。数日後、泊まる宿を探していた武蔵が行き当たったのは、まさしくその少年の家でした。一人暮らしらしい少年はまたしても気持ちよく武蔵を泊め、食事を出してもてなすのですが、夜が更けて武蔵が床に就くと、刀を研ぐ音が聞こえます。さては少年は賊の一味で、自分を殺して金品を奪う気なのかと察する武蔵。ところが、少年が語り出した話は意外なものでした。なんと、まさに前日、年老いた父親が死んだところで、遺骸を山の墓地に運ぼうと思うが一人では重くて運べない。そこで、刀で切断して半分ずつ運ぼうとしていたのだと言うのです。

武蔵が少年を見るに、まことにしっかりしていて肝が据わっています。感じ入った武蔵は父親の埋葬を手伝い、孤児となった少年を旅に連れ出します。その少年こそは、後に武蔵の養子となり、豊前小笠原藩の家老となった宮本伊織^{いおり}でした……

この不思議な小話は、18 世紀に記された武蔵の評伝『武公伝』や『二天記』などに記されているもので、史実としてはほぼ否定されていますが、宮本伊織その人は実在の人物で、確かに武蔵の養子となり、小笠原藩の筆頭家老を務め、軍事・政治の両面で活躍しています。しかし、武蔵の養子となる以前の出自がいまひとつ不透明な上、義父の武蔵同様に人生そのものに謎が多く、そのせいで武蔵にかかわる創作物でも、現在に至るまで実にいろんな描かれ方をしています。



作 齋藤倫瑠

ドジョウという魚は最も人里に身近な淡水魚のひとつであり、かつ、動物性蛋白源として極めて貴重なものでもありました。水質污染がなかったこの時代には、現在とは比較にならないくらい大量に生息していたはずで、そんなドジョウを獲って売るとは裕福でない少年向けの労働であった節があり、孤児や貧しい子供の^{なりわい}生業として中世文学や古記録にしばしば登場します。かの豊臣秀吉も、若き日、ドジョウを売って生活していたことが『改正三河後風土記』に記されています。ドジョウにまつわる立身譚の存在は、裏を返せば伊織の社会的な成功が非常なものであったことの証明とも言えるでしょう。

<これからの季節に観察できる生きもの>

○調査対象種:ヒガシホントカゲ、カワセミ、キジ、サワガニ、オオキンケイギクなど

○調査対象種以外

- * 渡りのヒタキ類、サシバなどの猛禽類
- * 各種昆虫、両生類、爬虫類など
- * 希少生物(生息地・生息数が減少している生物)、外来生物の報告も受け付けています。

調査対象種以外は種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

ホームページがリニューアルされました！

令和4年3月より、生命のにぎわい調査団のホームページが新しくなりました。生き物報告への投稿画面には新機能が追加され、過去14日以内に自分が投稿した内容を確認できるようになりました。今後とも、当ホームページと生き物報告を活用していただくと幸いです。

過去の投稿を確認 >

クリック！
* 過去14日間に自分が投稿した内容が確認できます

調査対象57種の生き物の種名を▼で選択してください。
その他は、「調査対象以外の生き物」を選択してください。

見つけた生き物 必須

☒ 調査対象の生き物 ☐ 調査対象以外の生き物

選択して下さい